

『 ぜん たい こう ひょう 全体講評 』

今年もたくさんの皆さんの作品を見ることができて、とても楽しかったです。

「絵」で一番大事なこと。それは、自分が感じたりびっくりしたり、美しいと思ったりしたことなどを、みんなに伝えるように工夫して表現することです。「馬の絵のコンテスト」だから馬の絵を描いたというだけでは、どんな気持ちも表現しなかったのか見る人には伝わっていきません。

例えば色塗り一つとっても、「楽しかった」のであれば「明るい色」になるでしょう。逆に「苦しかった」のであれば「暗い色」になると思います。「馬だから茶色」ということでは、自分らしい「工夫した絵」にはなりません。絵は写真とは違います。見たとおりそっくりに描いただけでは、「良い絵」にはならないのです。形は変でも(へたくそでも)、描いた人の気持ちが伝わってくる絵が「良い絵」なのです。

しんさいん
審査員

きくち つとむ
菊池 勉